

西東京市の住民になってから三年が過ぎましたが、私が一番お世話になっているのが、やはりなんと言っても、図書館です。

現在では、インターネットが普及し、自宅のパソコンから図書館のホームページを開き、本あるいはCD等の視聴覚資料の検索や読みたい本の予約が簡単にできる時代になりました。本

当に便利な世の中になったものだと思います。

私は、読みたい本を探し求めて、職場にある図書館や職場の近くにある区立図書館、あるいは西東京市の近隣区市の図書館も結構利用しています。他の複数の図書館を利用して

はじめてわかることです。西東京市の図書館のホームページ、特に蔵書検索や予約等のシステムは処理能力に優れ、スピードも速く、見やすく、使い勝手がよいと思います。都内にある公立図書館の予約システムの多くが利用しやすいものになっていないのが実情です。

わたしと図書館



藤本清孝

また、西東京市の場合、多くの本を借りられますし、所蔵していない本でも、インターネットでリクエストできたり、新刊本の予約等が簡単にできることも、他ではあまりないサービスです。

世間では、活字離れが進み、本と親しむ習慣が薄れてきていることが指摘されており、本との出会いは、先人の知恵に触れ、さまざまな人生と会うことでもあります。テレビや携帯電話等に関わる時間を減らし、図書館を有効活用して、もつともつと本を読んでゆつたりと静かに考える時間をもちたいものです。

最後に一言、図書館の本に書き込みがあったり、切り取られていたり、また、無断持ち出しがかなりあるようで、大変残念なことだと思います。図書館の本は多くの市民が利用するもの、大切に取り扱い、お互い気持ちよく利用していきたいものです。

朗読会にご協力いただいているボランティアの方に原稿をお寄せいただきました。

聞き上手のお客様に感謝！

増田恵津子

五月十九日に下保谷図書館で行った「大人における朗読会」は、ほぼ満席のお客様から暖かい拍手をいただき、幸せな気持ちで終わることができました。どの朗読も本番が最高でした。お客様と、良きパートナーの図書館関係者の方々のおかげです。心より感謝しています。

当日の片付けのあと、ぐるりと輪になって感想を述べあった時の私たちの表情は、文化祭で出し物が成功した時の若者のようだったと勝手に思っています。多くの方からいただいたアンケートによると、大人気は芥川龍之介と宮沢賢治の作品の朗読でした。ほぼ全員による『山かつぎ』群読や「あらしのよるに」シリーズはお客様の笑顔や笑い声も嬉しくて、いつもより楽しく読めました。

三十年の活動の中、会としての朗読会は、昨年春の図書館三十周年記念行事「大人のための朗読会」が初体験でした。おそろおそろの取り組みでしたが、楽しいし成果もありました。「いつかまた」と話していましたら、図書館恒例の取り組みとして共催で、との提案をいただき飛びつき

ました。

お客様の前での発表となると、さまざまな準備と工夫、特に朗読の質の向上が必要です。言いかえれば、発表会は活動をマンネリにしない特効薬となりました。実は、リハーサルでは、読みの浅いところや、時間を気にするための走りも指摘され、企画についての反省も生まれていました。お客様に楽しんでいただき、同時に新人も多く出られるようにとの思いから、作品はいろいろなジャンルのもの、読み手も取り混ぜてと欲張った面がありました。「お客様の貴重な時間をいただくのだ」という、勉強会での先生からの指摘は今後心して励みたいと思っています。

(保谷朗読ボランティアの会)

「平成十八年度西東京市図書館事業概要」ができました。各図書館で閲覧できます。



成人サービスは、利用対象者が多く、多様で幅広いサービスが求められています。

「地域住民の方々の共同の本棚・書斎」となれるよう、皆様のニーズの把握に努め、社会の動向や話題にも目を配りながら、時代に即したサービスを提供していきたいと考えています。